

小牧基地航空祭での ブルーインパルス飛行をやめさせましょう

★小牧基地航空祭へ参加の皆様

私たちは、名古屋市内の事務所を持ち、平和や人権の問題に取り組む、不戦へのネットワークという市民運動グループです。

同じ愛知県民として、小牧基地がこれ以上機能強化をしないように、小牧基地や愛知県に働き掛けてきました。小牧基地航空祭でのブルーインパルス飛行が行われますが、私たちは反対をしています。

ブルーインパルスは危険

★航空自衛隊小牧基地は、県営名古屋空港の滑走路を使っています。民間機が離発着する小牧基地でのアクロバット飛行は非常に危険です。更に、小牧基地周辺は住宅が密集しており、万が一、事故が起こった場合にはその被害は甚大なものになります。過去のブルーインパルス飛行では、1982年航空自衛隊浜松基地で墜落事故を起こし、パイロット1名が死亡し住民が負傷するという大事故が起こっています。また、91年と2000年には訓練中に墜落し、パイロットが死亡するという事故も起きています。

また、今年2月には、航空自衛隊所属UH60Jヘリによる部品落下事故が起きるなど所属航空機による事故も頻発しています。住民を危険に晒し、騒音を巻き散らすブルーインパルス飛行に反対します。

1982年浜松基地での事故



声を伝えるところ

- 小牧基地 : 0568-76-2191
- 東海防衛局 : 052-952-8221
- 愛知県航空対策課 : 052-954-6129

■不戦へのネットワーク

- 名古屋市昭和区鶴舞3-8-10
労働文化センター201
TEL050-3593-5130
Eメール husen@jca.apc.org

周辺自治体は反対しています

小牧基地航空祭でのブルーインパルスの開催は、ここ数年何度か問題になりました。その度に、周辺自治体は反対の意思表示を行ってきました。今回も、小牧基地に対し、地元住民と春日井市で構成する「春日井市飛行場対策市民協議会」が文書で反対の申し入れを行い、春日井市、小牧市、豊山町の周辺2市1町の首長が反対の申し入れを行っています。

小牧基地司令はその就任挨拶で、「自衛隊の任務遂行には、国民の皆様の理解と信頼が不可欠であり、特に基地周辺に居住されている住民の方々の理解と支援は基地運営の基盤であると考えております。」と語っています。言葉だけで実際に周辺自治体の意向を聞かない姿勢は問題です。

小牧基地の基地強化に反対します

★ 空の海外派兵の拠点としての小牧基地

私たちは、小牧基地のこれ以上の基地強化にも反対しています。小牧基地は、航空自衛隊の空の派兵拠点として機能しています。イラクではアメリカ軍の物資や兵員の輸送を行い、その後も、ソマリア沖での海賊対策を名目に、隣国のジブチに物資輸送をするなど海外での活動を行いました。2008年からの空中給油機の導入が、これまで「輸送と教育」を主任務に据えてきた小牧基地の役割を大きく変えたと言わざるを得ません。言うまでもなく、空中給油機は、戦闘機に飛行中に空中で給油できるものであり、戦闘能力を飛躍的に高めます。すでに訓練では米軍機への空中給油が行われています。

今、安倍政権は、憲法で禁止されている集団的自衛権行使禁止を閣議決定で覆し、法整備を進めています。法が「改悪」されれば、アメリカの戦争に日本が積極的に参戦していくことになります。その際、C130輸送機と、空中給油機を有する小牧基地は今まで以上に重要な役割を担わされることとなります。

小牧基地でのブルーインパルス飛行の実施は、派兵拠点として機能をしてきた小牧基地の役割を隠蔽し、自衛隊の存在を内外に示そうとするものです。

私たちは、「武力では平和は創れない」を信条として活動をしています。基地や軍隊は住民を守るどころか、ひとたび戦争が起これば犠牲になるのは市民であることを示す事例は枚挙にいとまがありません。私たちの生活や未来に直結する、戦争や戦争につながるものを未然に防ぐために、日頃から私たち市民が声を上げることはとても大事なことです。

小牧基地に配備されている空中給油機



防衛問題は「国の専管事項」では

ありません 地域住民・自治体の声こそ大事です